



子どもの森づくり通信

(発行：NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク)

J P 子どもの森づくり運動
参加園月例会報
(2018年11月号)

〒146-0082 東京都大田区池上 1-3-4 tel:03-5755-3213 fax:03-5755-3081
<http://www.kodomono-mori.net> <mailto:info@kodomono-mori.net>

「J P 子どもの森づくり運動」とご縁をもたせていただいた方々に、
活動情報をお送りさせていただいております。ご意見など賜れば幸いです。

<今月の1枚>



秋が深まってまいりました。

東北で“どんぐり”を拾う活動も実施され、皆さんのお手元に“どんぐり”が届いていると思います。

プランターやポットに植えて、大切に育てていただければと思います。

写真は、そんな“どんぐり”が発根する風景を子どもたちに分かりやすく伝えるためにと

秋田の森林インストラクター小沼さんが送ってくれたものです。

“どんぐり”の人形が可愛らしいですね。

(目次)

1. 「東北復興グリーンウェイブ」福島での活動が広がりました。
2. 「東北復興グリーンウェイブ」植樹フィールド情報（岩手県山田町）
3. 「東北復興グリーンウェイブ」活動」レポート
4. 事務局からのお知らせ / どんぐり博士の「育苗日記」（2018年11月号）

■「J P 子どもの森づくり運動」とは

今、子どもたちは、高度な情報化社会の中でバーチャルな環境に取り囲まれ、本物の自然体験活動から遠ざけられています。

しかしながら、子どもたちは、変化に富んだ自然体験活動の中でこそ、五感を通じて豊かな感性や健全な環境意識、そして子ども本来の生きる力を育みます。「J P 子どもの森づくり運動」は、NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク（「子森ネット」）が「日本郵政グループ」との協働体制で、全国の幼稚園・保育園を拠点に、一貫した森づくり活動を通じて幼児期の子どもたちに自然体験活動と環境学習の場を提供しようという全国運動です。

■「J P 子どもの森づくり運動」運営体制

・運 営 : NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク（「子森ネット」）

・特別協賛 : 日本郵政グループ

・後援/協力

（公社）全国私立保育園連盟

（公社）国土緑化推進機構

（一社）日本森林インストラクター協会

NPO法人MORIMORI ネットワーク

（株）実業之日本社 月刊ガルヴィ編集部

（公社）大谷保育協会

NPO法人C・C・C 富良野自然塾

NPO法人自然体験活動推進協議会

（一社）日本オート・キャンプ協会

保育環境研究所ギビングツリー



1. 「東北復興グリーンウェイブ」福島での活動が拡がりました。

福島県伊達市にある「霊山三育認定こども園」（斎藤園長）の子どもたちが育てた“どんぐり”の苗木が、今年の6月に同園の園庭に植えられました。「東日本大震災」原発事故の除染活動で伐採された園庭の樹木の再生活動としての取り組みです。そんな活動が、「霊山三育認定こども園」の斎藤園長先生の呼びかけで、同じ伊達市にある「伊達こども園」（早川園長）に拡がり、苗木の一部が同園に送られることになりました。「田島保育園」から「霊山三育認定こども園」につながった“どんぐり”の絆が、また一つつながりました。以下、2018年11月16日(金)に開催された“どんぐり”の苗木の受け渡し式」の風景です。



「伊達こども園」は伊達駅近くの大きな園です。



「伊達こども園」早川園長先生のごあいさつ



“どんぐり”の苗木は、「霊山三育認定こども園」の斎藤園長先生から一つずつ手渡されました。



「伊達こども園」の子どもたちから斎藤園長先生へのお礼のダンスがお披露目されました。



「伊達こども園」の子どもたちも、“どんぐり”の苗木を大切に育ててくれるそうです。



なんと、「伊達こども園」の園歌は『どんぐりおやまに顔出した〜♪』です。

「東北復興グリーンウェイブ」では、これからも「霊山三育認定こども園」「伊達こども園」をはじめ、福島における保育園、幼稚園、こども園の園庭の緑の再生活動を支援してまいります。

2. 「東北復興グリーンウェイブ」植樹フィールド情報（岩手県山田町）

「東北復興グリーンウェイブ」東北の“どんぐり”の苗木の植樹地である岩手県山田町からレポートが二つ届きました。それぞれ、植樹フィールドの整備について、地元保育園さんの職員と保護者での活動です。来春の苗木の受け入れ体制は万全です。

1) 「しいたけの森」の草刈りを実施しました。（2018年7月14日）

おはようございます!!

只今、「しいたけの森」草刈作業中です。

参加したお父さんから苗を植えた場所の印は「棒を刺すのではなく、苗自体にテープを付けてほしい」との意見があったそうです。



2) 動物除けのネットを修繕しました。（2018年10月17日）

先日の台風25号が温帯低気圧になった後の強風で、みんなで作った動物除けのネットが倒壊しました。来春の植樹会に向けて、以下の修繕作業を実施しました。①ポールに添え木をして地中深くまで打ち込み安定させる。②ポールに添え木を打ち込んだ穴の周りに碎石を敷き、風でのグラつきを防ぐ。③ポールとネットを部品で止め、風でバタつかないようにする。もう大丈夫です。



3. 「東北復興グリーンウェイブ」活動レポート

先日、東北の子どもたちが拾った“どんぐり”を「東北復興グリーンウェイブ」の参加園にお送りしたばかりなのに、早速、“どんぐり”をプランターに植える活動のレポートが届けられましたのでご紹介します。今回は、広島県の二つの保育園さんからのレポートです。ご担当の先生からは、「どんぐりひろいはいつもしていますが、植えるのは初めてなので興味津々でした。」「東北から送ってきたどんぐり」の説明は、子どもたちには、なかなかピンとこないみたいです。」との感想が届きました。

●広島県「春日野まごころ保育園」東北の“どんぐり”をプランターに植える活動

・日時：2018年11月13日(火) ・場所：園庭



●広島県「山本まごころ保育園」東北の“どんぐり”をプランターに植える活動

・日時：2018年11月14日(水) ・場所：自園



4. 事務局からのお知らせ

1)「エコプロ2019」イベントステージのご案内

今年も、国内最大の環境展「エコプロ2019」のイベントステージにおいて「東北復興グリーンウェイブ」の活動発表を行います。今年は、「東北復興グリーンウェイブ」のテーマソング「♪どんぐりえがお」をテーマに、そこに込められた被災地と全国の子どもたちの絆の願いを発信します。ゲストとして作詞者である岩手県山田町の男性保育士ユニット「男心会」の中村先生と作曲者である、今注目のミュージシャン佐久間順平さんをお迎えし、それぞれの歌に対する想いを語ってまいります。その後、佐久間さんのミニライブ、さらに、関東近隣の保育園の子どもたちの歌の発表会があり、最後にみんなで生バンドをバッグに「♪どんぐりえがお」の大合唱を行います。めったにない機会です。皆さんも、是非、ご参加下さい。

- ・日時：2018年12月8日(土)10:15～10:55
- ・会場：東京ビッグサイト「エコプロ2019」東3ホール イベントステージ
- ＊アクセス：りんかい線「国際展示場駅」徒歩5分 ゆりかもめ「国際展示場正門駅」徒歩8分

なお、日本郵政グループさんのブース内（東3ホール3-024）において、12月6日(木)～8日(土)10:00～17:00の期間で、パネルや動画による今年の「東北復興グリーンウェイブ」の活動発表を行っています。よろしければご来場下さい。

2)「全国集会&研修会2019」滋賀大会 参加者募集のお知らせ

年に一度、J P 子どもの森づくり運動の参加園と保育関係者が集い、交流と情報交換を行う

J P 子どもの森づくり運動「全国集会&研修会2019」滋賀大会のご案内です。今年は、基調講演の講師に、東京工業大学 名誉教授 こども環境学会 代表理事の仙田満先生を迎え、「子どもとあそび」をテーマにご講演いただきます。保育のスキルアップを目指す保育実践講座や防災講座も開催します。JP子どもの森づくり運動の10年を踏まえ、これからの10年を考える重要な集会です。皆様の積極的なご参加をお待ち申し上げます。詳細は、同封の募集チラシをご参照下さい。



佐久間順平さん



どんぐり～ずも来るよ！



こども環境学会代表理事
仙田 満先生

●どんぐり博士の育苗日記(2018年10月号) ～落ち葉の大きな効用～

落ち葉が舞う季節となりました。シャンソンの名曲「枯葉」のような詩情を感じる方も多いと思いますが、あまり良いイメージを持ってない方もいらっしゃるでしょう。落ち葉について考えてみます。

「子森ネット」どんぐり博士：河内和男（森林インストラクター）



どんぐりの木のうちコナラやクヌギなどは落葉広葉樹です。冬になると落葉し、寒さを休眠して乗り越えます。落ち葉とは、活動期の不要な残り物で老廃物といえます。けれど、森での落ち葉は、森をより豊かにする重要な役割を担っているのです。

森では、落葉した葉が木々の下の地面（林床といいます）に降り積もります。降り積もった葉は、下の方から微生物などのはたらきで分解され、栄養分やミネラルに富んで細分化された腐葉土へと変化していきます。そのため、不要物として落ちた葉は、表土中の養分となって蓄えられ、木々が生長するために再利用されて循環します。また林床の植物や分解者（キノコなどの菌類、微生物、虫やミミズ）から小動物まで多種多様な生物の生息の場と栄養を提供し、森の生物多様性を豊かにしているのです。

落ち葉の効用はまだあります。森に雨が降ると雨水は落ち葉や腐葉土を通過して川へと流れます。腐葉土の栄養やミネラルが溶け込んだ水は、川の生命を豊かに育み、さらにそれは海へと続きます。豊かな森林を流域に持つ河川からの水は、沿岸部の海の生物を育み、そのような場所は人間にとって豊かな漁場や、養殖の場所となっています。岩手県山田町の植樹地のうち、沢治の「牡蠣の森」はこの効果を願って植樹されました。

この循環と効果から切り離されてしまった都市部の落ち葉は、ちょっと哀れで処分には困りますが、狭い土地でも豊かな土壌となるよう、木々の根元付近を落ち葉で覆ってみるのも良いかもしれません。明治神宮へ行くと参道は長い箒でいつも掃かれて落ち葉一つありませんが、集められた落ち葉はすべて明治神宮の森に返して森を育てるようにしています。